

一、今回の争議に關し犠牲者を出さぬこと 上

右の通り決議を別紙連名にて獻願申上候

昭和十一年三月八日

昭和鐵工株式会社

鐵工 上 部 役 員 一 同

十二、經 過

1、 従業員側状況

鐵道部に在りては三月七日強硬派鐵工代表として永島清
外四名が會社を訪問し、獻願書を出し待機せる鐵工に
對してアシヒラを配布す

同日午後四時丹ひ會社を訪問し、回答を要求したる鐵工
より前記獻願書の内容消滅的に行具體的に示せとの回答
ありたる爲、直ちに全員を集めて之を報告し、協調の結果

水害を作製すると共に現在提出せる誓約書の迄戻を交渉
し之を受取るや全員結束を固め午後九時會社に要求書を
提出し八日午後五時回答を給し、協調に進展す。

鐵工部職工は鐵道部の獻願に朝駈され八日午前九時牛市
内牛尾町水池に日十二名集會し對策を協議したるも、鐵工
す更に午後市内住吉神社其子集會所於て協調を續けた
る結果漸く意見一致し代表委員(十二名)と獻願書を決
定し工場鐵道中の鐵道部と合流することとなり。

同日午後五時鐵道、鐵工部代表は天々會社を訪問し要
求書、獻願書を提出し、協調回答を要求したるも、互役會
關係の上回答する事となり引續けたり。

同日午後六時家族を安心さす可くヒラ四百枚を配布する
一方引續き闘争方針を協調したる處永島清等が謀て全水